

沖縄キリスト教短期大学自己点検・評価・改善委員会
(編・著)

2009年度 後期

学生による授業評価報告書

巻頭言

第1章 授業評価の概要

第2章 科目・クラス別評価

総合教育系科目

英語科科目

保育科科目

第3章 自由記述による授業評価

付 録 満足度調査報告

沖縄キリスト教短期大学

2009

Introduction to the Term-end Questionnaire Data from the Fall Term 2009

Randolph H. Thrasher, President

The first thing to point out is the difficulty in interpreting these data. As I mentioned in my comments on the Spring Term data, we have this difficulty because the data reported here is the combination of the questionnaire results of students in 3 different educational programs. As in the Spring Term data, we can see this problem most clearly in the results of question 15.

However it was good to find a general improvement over the Spring term results. Although I cannot be completely confident that all of the differences in the means indicate a real difference, the trend is clear. With the exception of question 15, all of the Fall term means were higher than those in the Spring. This is good news, but the results of question 15 are particularly discouraging. It appears that the students did even less homework in the Fall Term than they had done in the Spring Term. The overall mean fell from 2.05 in the Spring term to 1.83 in the Fall. The mean in all three programs dropped, but the biggest drop was in General Education; from 2.19 to 1.69.

This is clearly an area that the Tandai faculty meeting needs to study in order to find way to get students to study more on their own. Life-long education will only be possible for students who have the motivation and skills necessary to study on their own. We need to find ways to use our classes to prepare students to become motivated life-long learners after graduation.

We can be proud of the general overall improvement compared with the Spring term, but I believe we can do better, particularly in the area of getting students to study outside of class.

巻頭言

2009年度後期・学生による授業評価

沖縄キリスト教短期大学

学長 Randolph H. Thrasher

まず初めに述べさせていただきたいことは、得られているデータの解釈が困難であるということです。前期の授業評価の際にも触れましたが、ここで得られたデータというのは3つの異なる教育課程における学生のアンケート結果がひとまとめになったものなので、その解釈が難しくなるのです。前期の場合と同様に、Q15（「私は、この授業のために週あたりほぼ次の時間、宿題や予習などをしました」）の回答結果においてもっとも顕著にその問題が見受けられます。

全般的には、前期の結果に比して改善が見られて良いのですが、やはり全ての平均値間の差に有意性があるかどうかは完全に確信できないという傾向が認められます。Q15を除き、後期の授業評価で得られた評定のすべての平均値が前期のものを上回りました。これはとても喜ばしいのですが、Q15の結果に関しては特に残念に思います。前期よりさらに学生が宿題や予習にかかる時間が減っており、英語科、保育科、総合教育系を合わせた全体での平均時間が前期 2.05 時間 → 後期 1.85 時間に減少しています。3つの教育課程別に見ても Q15 に関してはそれぞれ値が減少しているのですが、最も顕著なのは総合教育系の前期 2.19 時間 → 後期 1.69 時間でした。

短期大学の教授会において、学生の自主学習を促進する方法をぜひ検討していただきたいと思います。生涯学習には、自発性と自学自習のスキルが必要です。私たち教員は、授業を通して、学生たちに卒業後も生涯学習に対する意欲を持つように教育しなければなりません。

前期と比べて全体的な改善が見られることは良い点ですが、学生が宿題と予習にかかる時間については、さらに改善していけると信じています。

沖縄キリスト教短期大学自己点検・評価・改善委員会委員（2009年度）

Randolph H. Thrasher（委員長・学長）

山城 眞紀子（委員・短期大学部長）

仲 座 栄利子（委員・英語科長）

吉 村 壮 明（委員・保育科長）

青 野 和 彦（委員・総合教育系主任）

金 永 秀（委員・宗教部長）

仲 地 弘 善（委員・図書館長）

高 崎 正 名（委員・キャリア開発部長）

城 間 仙 子（委員・教学部長）

上 原 明 子（委員・入試部長）

仲 門 勇 市（委員・事務局長）

武 村 朝 吉（委員・企画推進課長）

執筆者

上 原 明 子（総合教育系）

柳 田 正 豪（英語科）

照 屋 建 太（保育科）

以上

沖縄キリスト教短期大学
2009年度後期
学生による授業評価報告書

第1章

授業評価の概要

1 学生による授業評価の概要

2009年度後期の授業評価アンケートを、2010年1月中旬に実施した。対象は、すべての開講科目クラス（104科目、173クラス）とした。クラス数は実習科目（施設、保育、教育、海外研修）および10名以下の授業は含めていない。分析に投与された評価票は、3,965件であった。評価は5段階法を採用しており、1点を最低、5点を最高の評価としている。各設問に対する数量的な結果については、後に度数分布表および棒グラフとして示す。

以下、各設問に対する結果に対して若干の解説、解釈を述べる。

Q1「先生は、学期始めに授業の目的およびこの授業で学生のなすべきことについて明確に説明しました」

「5」評価が81.8%、「4」評価を加えると95.7%であったことから、教員の授業目的や概要の説明は適切に実施されていると捉えることができよう。この結果は、前年度後期より改善されてきているため、このまま継続し努力を続けるとよいだろう。

Q2「先生は、宿題・試験・成績評価の仕方などについて説明がはっきりしていました」

「5」評価が79.7%、「4」評価を加えると94.3%であった。前年度後期とほぼ同じ値である。今後も、努力し続け維持していきたいと思われる。

Q3「先生は、授業について熱意がありました」

「5」評価が84.6%、「4」評価を加えると95.8%であった。この結果は前年度後期とほぼ同じ値である。この設問は17の設問の内、よい評価を得ている。例年評価が一番高い設問で、教員の熱心さは本短大教員の特徴であると言える。

Q4「先生の授業は、とてもわかりやすかった」

「5」評価が72.1%、「4」評価を合わせると88.7%であった。この結果は前年度後期とほぼ同じ値である。今後も学生に理解しやすい授業を行うことを心に留めて行いたい。

Q5「先生の授業の準備はよくできていました」

「5」評価が80.1%、「4」評価を加えると94.2%であった。前年度後期とほぼ同じ値であり、本学教員の教材研究や準備等はしっかり行われてきていると考えられる。

Q6「先生は、学生の理解・興味を深めるためにいろいろ工夫をしていました」

「5」評価が77.1%、「4」評価を加えると91.9%とおおむね良好な結果であると捉えてよい。今後も努力を続け工夫した授業を行い学生の理解度を高める努力を続けて、この値を維持していきたいものである。

Q7「先生の授業は、時間通りに始まり、時間通りに終わりました」

「5」評価が79.7%、「4」評価を加えると93.5%であったことから、本学教員の授業時間管理がほぼ適切になされていると捉えることができる。

Q8「授業でわからないことを質問する機会や工夫がありました」

「5」と「4」の評価を合わせると91.8%で前年度後期とほぼ同じ値となった。今後も学生の質問する時間をしっかりとることで、授業の理解も深まるため、質問の時間をしっかりとるように心がけたい。

Q9 「先生は、授業を乱す行為(私語、携帯電話、居眠り、中座等)」に対して適切に対応していました。」

「5」と「4」の評価を合わせると 90.5%であり、おおむね適切な対応を教員は取っているものと考えてよいだろう。9割を超えており、この状態を継続して続けていくとよいと思われる。

Q10 「私は、この先生のこの科目を、他の学生や他大学の学生にも受講するように勧めたい」

「5」と「4」の評価を合わせると 89.9%である。評定結果がおよそ9割となり、他大学の学生に勧められることは素晴らしいと言えよう。

Q11 「私は、この授業に熱意を持って取り組みました」

「5」と「4」の評価を合わせると 90.0%であり、本学学生は多くの科目において熱心に取り組んでいると評価してよいだろう。

Q12 「私は、授業の学習にあたり、シラバス(講義要項・学習計画)を参考にしました」

「5」評価が 56.8%、「4」の評価は 18.8%、「3」は 16.2%である。前年度後期は「5」評価が約 50%、「4」の評価は約 18%、「3」は約 20%で全体的に「5」評価が増えている。しかし、標準偏差が 1.0 を超え、回答にばらつきがあると捉えることもできる。登録前オリエンテーションの方法をさらに検討していく必要がある。

Q13 「私は、授業中、私語や携帯電話・中座など、授業を乱す行為をしませんでした」

「5」と「4」の評価を合わせると 90.7%であった。学生は熱心に授業に取り組んでいると理解できる。

Q14 「私は、この授業で遅刻・欠席はほとんどありませんでした」

「5」と「4」の評価を合わせると 86.1%であった。この評価が改善されるためには、学生の生活改善の努力も必要となる。

Q15 「私は、この授業のために週あたりほぼ次の時間、宿題や予習などをしました」

選択肢はそれぞれ、「5」評価が 2.1%、「4」評価が 3.4%で「3」「2」「1」評価を合わせると 89.0%になった。他の設問は改善される傾向があったがこの設問は「5」「4」が減少していた。この結果より本学学生は授業時間以外において、予習できる環境を整える必要があるだろう。

Q16 「この授業を全体的に評価してください」

選択肢はそれぞれ、「5」秀、「4」優、「3」良、「2」可、「1」不可、「0」わからない、である。平均は 4.19 で肯定的な評価が得られていると考えられる。「5」「4」の評価を合わせると 79.7%であった。今後も学生の意見を取り入れ可能な限り評価が上がるように努力する必要があるだろう。

Q17 「私は、この先生の別の科目も受講したいと思います」

教員に対する期待を示す項目であると捉えることができよう。「5」「4」の評価を合わせると 82.1%、平均値は 4.49 であった。この結果は前年度後期より減少した。今後も学生に受講したいと思われる講義を続けていきたいものである。

Q1授業の目的

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	7	.2	.2	.2
	2	12	.3	.3	.5
	3	151	3.8	3.8	4.3
	4	549	13.8	13.9	18.2
	5	3236	81.6	81.8	100.0
合計		3955	99.7	100.0	
欠損値	システム欠損値	10	.3		
合計		3965	100.0		

Q2成績評価方法

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	12	.3	.3	.3
	2	23	.6	.6	.9
	3	188	4.7	4.7	5.6
	4	579	14.6	14.6	20.2
	5	3156	79.6	79.7	100.0
合計		3958	99.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	7	.2		
合計		3965	100.0		

Q3先生の熱意

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	5	.1	.1	.1
	2	22	.6	.6	.7
	3	136	3.4	3.4	4.1
	4	445	11.2	11.2	15.3
	5	3349	84.5	84.6	99.9
合計		3957	99.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	8	.2		
合計		3965	100.0		

Q4わかりやすい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	34	.9	.9	.9
	2	78	2.0	2.0	2.9
	3	333	8.4	8.4	11.3
	4	658	16.6	16.6	27.9
	5	2855	72.0	72.1	100.0
合計		3958	99.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	7	.2		
合計		3965	100.0		

Q5準備よい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	10	.3	.3	.3
	2	30	.8	.8	1.1
	3	187	4.7	4.7	5.8
	4	559	14.1	14.1	19.9
	5	3170	79.9	80.1	100.0
合計		3956	99.8	99.9	
欠損値	システム欠損値	9	.2		
合計		3965	100.0		

Q6理解興味 of 工夫

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	18	.5	.5	.5
	2	50	1.3	1.3	1.8
	3	249	6.3	6.3	8.1
	4	587	14.8	14.8	22.9
	5	3051	76.9	77.1	100.0
合計		3955	99.7	99.9	
欠損値	システム欠損値	10	.3		
合計		3965	100.0		

Q7時間どおり

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	13	.3	.3	.3
	2	54	1.4	1.4	1.7
	3	191	4.8	4.8	6.5
	4	546	13.8	13.8	20.3
	5	3153	79.5	79.7	100.0
合計		3957	99.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	8	.2		
合計		3965	100.0		

Q8質問の機会

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	23	.6	.6	.6
	2	55	1.4	1.4	2.0
	3	244	6.2	6.2	8.2
	4	609	15.4	15.4	23.6
	5	3024	76.3	76.4	100.0
合計		3955	99.7	99.9	
欠損値	システム欠損値	10	.3		
合計		3965	100.0		

Q9授業妨害へ対処

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	16	.4	.4	.4
	2	55	1.4	1.4	1.8
	3	299	7.5	7.6	9.4
	4	682	17.2	17.2	26.6
	5	2903	73.2	73.3	99.9
合計		3955	99.7	99.9	
欠損値	システム欠損値	10	.3		
合計		3965	100.0		

Q10薦めたい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	45	1.1	1.1	1.1
	2	73	1.8	1.8	2.9
	3	276	7.0	7.0	9.9
	4	627	15.8	15.8	25.7
	5	2934	74.0	74.1	99.8
合計		3955	99.7	99.9	
欠損値	システム欠損値	10	.3		
合計		3965	100.0		

Q11熱意を持って参加

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	7	.2	.2	.2
	2	45	1.1	1.1	1.3
	3	343	8.7	8.7	10.0
	4	834	21.0	21.1	31.1
	5	2727	68.8	68.9	100.0
合計		3956	99.8	99.9	
欠損値	システム欠損値	9	.2		
合計		3965	100.0		

Q12シラバス参考

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	158	4.0	4.0	4.0
	2	163	4.1	4.1	8.1
	3	643	16.2	16.2	24.3
	4	743	18.7	18.8	43.1
	5	2247	56.7	56.8	99.9
合計		3954	99.7	99.9	
欠損値	システム欠損値	11	.3		
合計		3965	100.0		

Q13授業を中座しない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	5	.1	.1	.1
	2	43	1.1	1.1	1.2
	3	317	8.0	8.0	9.2
	4	716	18.1	18.1	27.3
	5	2874	72.5	72.6	99.9
	合計	3955	99.7	99.9	
欠損値	システム欠損値	10	.3		
合計		3965	100.0		

Q14遅刻欠席ない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	27	.7	.7	.7
	2	104	2.6	2.6	3.3
	3	410	10.3	10.4	13.7
	4	696	17.6	17.6	31.3
	5	2713	68.4	68.5	99.8
	合計	3950	99.6	99.8	
欠損値	システム欠損値	15	.4		
合計		3965	100.0		

Q15予習復習時間

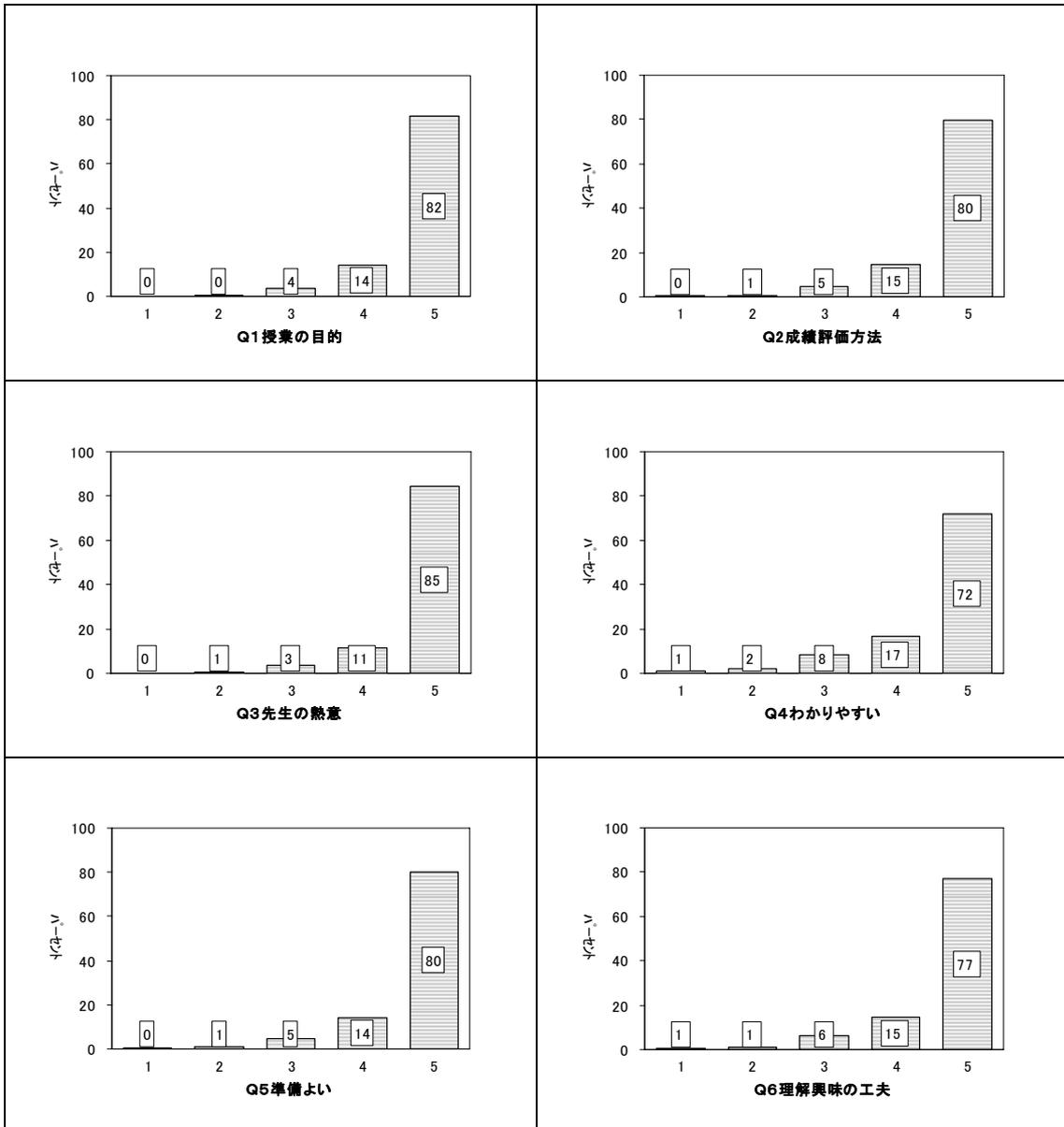
		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	1774	44.7	44.8	44.8
	2	1146	28.9	29.0	73.8
	3	603	15.2	15.2	89.0
	4	136	3.4	3.4	92.4
	5	85	2.1	2.1	94.5
	合計	3744	94.4	94.6	
欠損値	システム欠損値	221	5.6		
合計		3965	100.0		

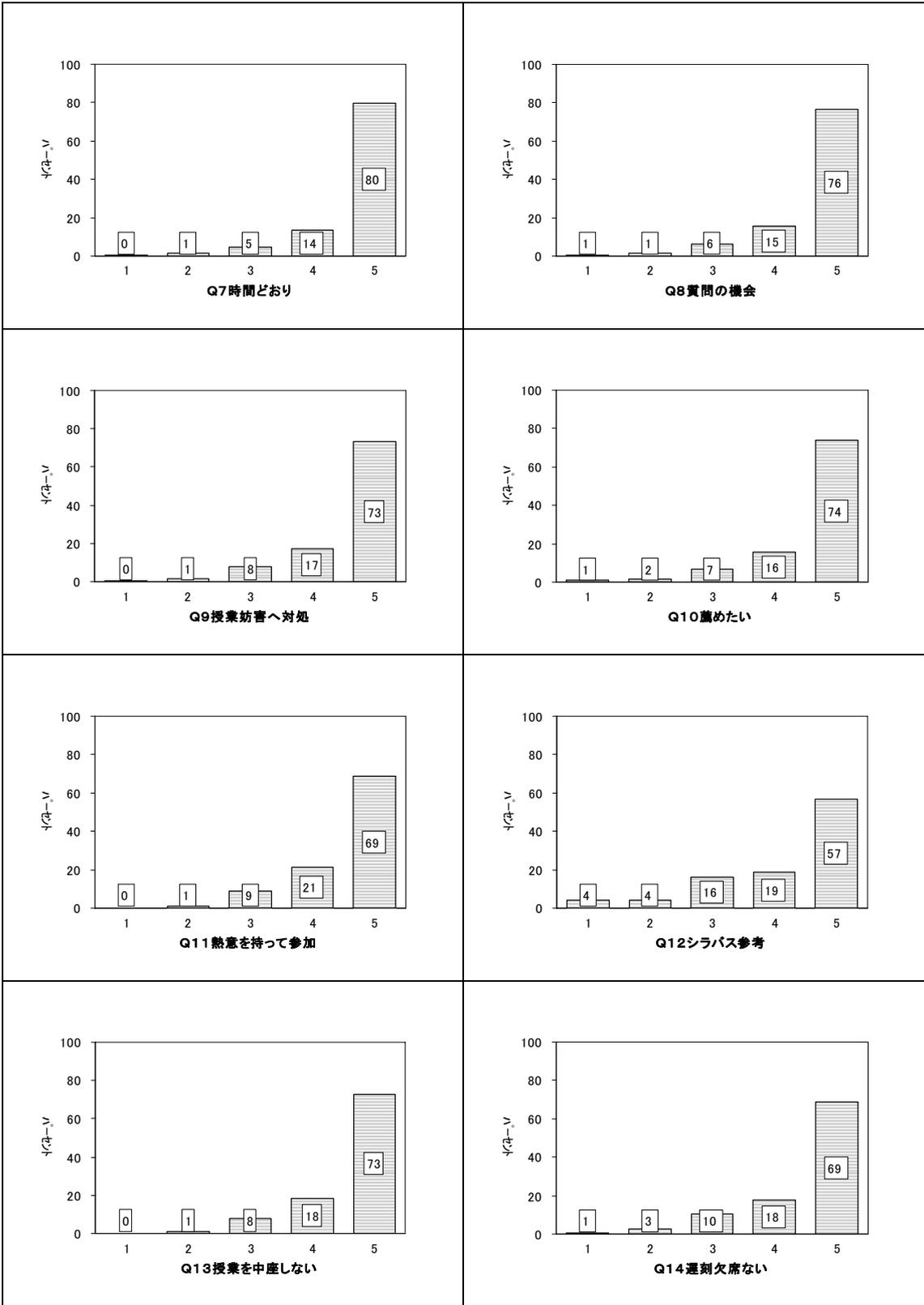
Q16全体的評価

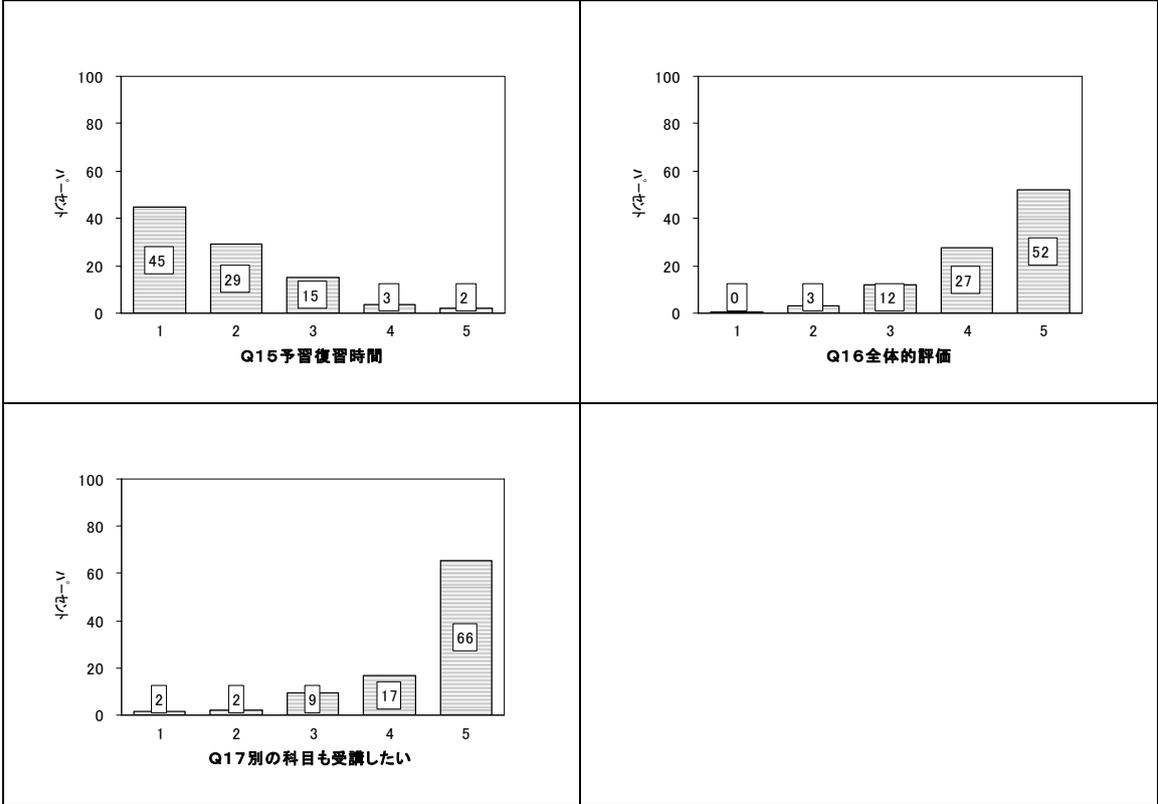
		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	0	138	3.5	3.5	3.5
	1	11	.3	.3	3.8
	2	130	3.3	3.3	7.1
	3	472	11.9	11.9	19.0
	4	1083	27.3	27.4	46.4
	5	2070	52.2	52.3	98.7
	合計	3904	98.5	98.6	
欠損値	システム欠損値	61	1.5		
合計		3965	100.0		

Q17別の科目も受講したい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	69	1.7	1.7	1.7
	2	79	2.0	2.0	3.7
	3	370	9.3	9.3	13.0
	4	652	16.4	16.5	29.5
	5	2595	65.4	65.6	95.1
合計		3765	95.0	95.1	
欠損値	システム欠損値	200	5.0		
合計		3965	100.0		







2 全体の評定結果

平均値では 17 項目中 16 項目で 4.0 以上の評価を得ている。前年度（後期）で 4.0 以下の評価を得た Q12 の「シラバス参考」は 3.97 から 4.20 へと向上した。また同年度（後期）で最も低い評価を得た Q15 の「予習復習時間」は若干ではあるが 1.78 から 1.83 へと上昇した。

教員要因では Q3 の「熱意」が最も高い評価となっている。前年度（後期）の評価からの向上したのは Q9 の「授業妨害へ対処」(0.04 ポイント)、Q1 の「授業の目的」(0.02 ポイント)、Q2 の「成績評価方法」(0.02 ポイント) となっている。最も低い評価は前年度（後期）同様に Q4 の「わかりやすい」であり、評価も同じく 4.57 のままである。

学生要因では、全ての項目で平均値が上昇している。Q13 の「授業を中座しない」と Q14 の「遅刻欠席ない」はそれぞれ 0.06 ポイント上昇している。Q15 の「予習復習時間」が 1.83 へと向上しているものの、この学生の「予習復習時間」に関しては、各学科で協議し、この課題に真剣に取り組まなければならないであろう。

評価項目別評定結果（全体）

記述統計量^a

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Q1 授業の目的	3955	1	5	4.77	.542
Q2 成績評価方法	3958	1	5	4.73	.603
Q3 の熱意	3957	1	5	4.80	.528
Q4 わかりやすい	3958	1	5	4.57	.797
Q5 準備よい	3956	1	5	4.73	.606
Q6 理解興味の工夫	3955	1	5	4.67	.691
Q7 時間どおり	3957	1	5	4.71	.651
Q8 質問の機会	3955	1	5	4.66	.708
Q9 授業妨害へ対処	3955	1	5	4.62	.721
Q10 薦めたい	3955	1	5	4.60	.792
Q11 熱意を持って参加	3956	1	5	4.57	.712
Q12 シラバス参考	3954	1	5	4.20	1.102
Q13 授業を中座しない	3955	1	5	4.62	.690
Q14 遅刻欠席ない	3950	1	5	4.51	.835
Q15 予習復習時間	3744	1	5	1.83	.977
Q16 全体的評価	3904	0	5	4.19	1.157
Q17 別の科目も受講したい	3765	1	5	4.49	.890

3 学科ごとの評定結果

3.1 総合教育系の評定結果

全体的に、評価が向上している結果となった。教員要因項目の平均値では、Q8「質問の機会」が前年度（後期）の 4.72 から 4.69 に下がった以外は、前年度と比較して評価が向上している。特に、Q3「熱意」が、4.88 と最も高い評価を得ていることは、今後の教育活動の励みになる。学生要因項目の平均値では、Q14「遅刻欠席ない」が、

前年度（後期）の 4.54 から 4.50 と若干低下している以外は、ほぼ例年と同じである。Q15「予習復習時間」が、1.69 と低いことについて、教養教育に対する意識の向上についての課題が残る。

総合教育系の評定結果

記述統計量^a

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Q1授業の目的	788	1	5	4.86	.430
Q2成績評価方法	790	1	5	4.84	.459
Q3の熱意	790	2	5	4.88	.391
Q4わかりやすい	790	1	5	4.73	.616
Q5準備よい	790	2	5	4.86	.428
Q6理解興味の工夫	789	1	5	4.81	.517
Q7時間どおり	790	1	5	4.79	.551
Q8質問の機会	789	1	5	4.69	.658
Q9授業妨害へ対処	788	1	5	4.67	.660
Q10薦めたい	790	1	5	4.74	.612
Q11熱意を持って参加	790	1	5	4.64	.662
Q12シラバス参考	790	1	5	4.25	1.092
Q13授業を中座しない	790	1	5	4.66	.677
Q14遅刻欠席ない	788	1	5	4.50	.893
Q15予習復習時間	733	1	5	1.69	.908
Q16全体的評価	781	0	5	4.34	1.086
Q17別の科目も受講したい	759	1	5	4.62	.734

3.2 英語科の評定結果

教員要因である項目では、前年度（後期）と同様にすべて 4.0 以上の評価を得ている。また全項目において前年度（後期）より平均値が向上している。英語科全体としては概ね良好であると捉えられることができる。前年度最も低かった Q15 の「予習復習時間」は 0.16 ポイント上昇したが、2.09 という平均値は依然として低い。

3.3 保育科の評定結果

前期同様、教員要因に関しては、Q3「熱意」が最も高く 4.82 であった。学生は教員の熱意を高く評価している。Q4「わかりやすい」は 4.53 であり、4「そう思う」以上の評価であるが、この設問も前期同様に教員要因の中では最も低い評価となっていた。今後もよりわかりやすい授業を行うことが改善点として挙げられる。学生要因としては、Q14「遅刻欠席ない」が 4.65 と最も高く、授業への出席率のよさを示している。しかし、Q15「予習復習時間」が 1.72 となっており、予習復習時間が「30分未満」の結果となっている。前年度も同様の結果であることから、保育科にとって学生の自主的な学習意欲を高めることが大きな課題となっていると言えよう。

英語科の評定結果

記述統計量^a

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Q1授業の目的	1232	1	5	4.75	.547
Q2成績評価方法	1233	1	5	4.71	.609
Q3の熱意	1232	1	5	4.71	.623
Q4わかりやすい	1233	1	5	4.55	.810
Q5準備よい	1231	1	5	4.71	.623
Q6理解興味の工夫	1232	1	5	4.61	.738
Q7時間どおり	1232	1	5	4.74	.616
Q8質問の機会	1233	1	5	4.67	.697
Q9授業妨害へ対処	1233	1	5	4.60	.728
Q10薦めたい	1231	1	5	4.57	.808
Q11熱意を持って参加	1233	1	5	4.50	.758
Q12シラバス参考	1231	1	5	4.35	.889
Q13授業を中座しない	1231	1	5	4.57	.707
Q14遅刻欠席ない	1229	1	5	4.29	.906
Q15予習復習時間	1162	1	5	2.09	.931
Q16全体的評価	1211	0	5	4.23	1.057
Q17別の科目も受講したい	1173	1	5	4.47	.903

保育科の評定結果

記述統計量^a

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Q1授業の目的	1935	1	5	4.74	.575
Q2成績評価方法	1935	1	5	4.69	.644
Q3の熱意	1935	1	5	4.82	.504
Q4わかりやすい	1935	1	5	4.53	.845
Q5準備よい	1935	1	5	4.69	.648
Q6理解興味の工夫	1934	1	5	4.65	.715
Q7時間どおり	1935	1	5	4.66	.703
Q8質問の機会	1933	1	5	4.64	.735
Q9授業妨害へ対処	1934	1	5	4.61	.738
Q10薦めたい	1934	1	5	4.57	.840
Q11熱意を持って参加	1933	1	5	4.59	.698
Q12シラバス参考	1933	1	5	4.09	1.212
Q13授業を中座しない	1934	1	5	4.64	.683
Q14遅刻欠席ない	1933	1	5	4.65	.728
Q15予習復習時間	1849	1	5	1.72	1.001
Q16全体的評価	1912	0	5	4.11	1.236
Q17別の科目も受講したい	1833	1	5	4.45	.935

4 自由記述による評価

4.1 総合教育系の授業について

「1. この授業のよい点」では、「おもしろい」「楽しい」「わかりやすい」「やる気が出る」等の表現が多いことから、教師の授業への取り組みの熱意が伺える。

「2. この授業の改善点」では、「特になし」がほとんどであったが、語学クラスに関して、スピーキングの多さと少なさについての両極端の視点での評価が見られた。また、宿題の多さや少なさについても同様で、これは、熱意のある学生とのんびり構えている学生の差異によるものだと分析される。FD等で、進捗状況に応じた学生指導について検討する必要がある。

「3. 感想等」では、視聴覚教材を取り入れた授業への満足度の高さが伺えた。担当教師への好感度を上げた回答も多く見られた。

4.2 英語科の授業について

「1. この授業の良い点」では前年度（後期）の改善点で指摘された「くわしく説明してほしい」などの箇所が「この授業の良い点」として挙げられている。

「2. この授業の改善点」では前年度と同様に「(授業の)進むペースが早い」などの苦言が目立った。英語科としてはこの苦言・不満を受け止め、改善に向けて早急に取り組んでいきたいと思う。

4.3 保育科の授業について

「1. この授業のよい点」についての記述が、「2. この授業の改善点」より多いことから、学生は受講した授業に関して「よかった」と捉えていると言えよう。

「1. この授業のよい点」として挙げられている内容は、前期同様「楽しかった」「自分が子どもの立場だったらどうするかを実際にやってみる」「知識だけでなく保育現場で役立つ」「いろいろな技法を学べる」「ディスカッションを取り入れてくれた」「ビデオを使用していた」などがあり、学生の理解しやすい授業にするためにしっかり取り組んでいる様子が伺える。卒業後、すぐに実践できる内容も多いのも特徴だろう。

「2. この授業の改善点」としては、「特になし」が多く見られるが、「もっとわかりやすく」「ゆっくり」「丁寧に」「声が小さい」などの改善点が求められている。これらは、各教員の早急な改善が求められる。

おわりに

全体として、概ね好評であるとの評価結果となった。特に、教員要因項目において、熱意があることが各学科で高く評価されていることは、本学の教育姿勢が評価されたと考える。魅力ある授業は、学習意欲を高め、各々の目標達成へとつなげていこう。課題は、予習復習時間の低さであるが、今回は、前年度後期と比べ、全体の平均値が、1.78 から 1.83 へと若干上昇している。引き続き、全教員が問題意識を持って取り組むことで、必ずや改善されるだろう。

学生による授業評価について

調査期間： 前期 7 月
後期 1 月
調査対象： 全クラス

学生のみなさまへ：

この調査は、本学の教育活動を充実・改善するための基礎資料を得るために、全クラスについて実施されるものです。なお、この調査データはコンピュータにより統計処理され、担当教員に個々の生データを閲覧させることはありません。「成績」に影響を及ぼすようなことはありません。またプライバシー保護については十分留意します。

率直な（真摯な）評価をお願いします。

自己点検・評価委員会委員長

沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学学長

※ 記入終了後、指名された学生が回収します。 提出先：教務課

PART I 設問 1～17 について、評価欄のあてはまる数字（5～1）に○をつけてください。

評価の基準： 5 非常にそう思う 4 そう思う 3 どちらとも言えない 2 そう思わない 1 全くそうは思わない

評 価 欄

1. 先生は、学期の初めに授業の目的及びこの授業での学生のなすべきことについて明確に説明しました。	5	4	3	2	1	
2. 先生は、宿題・試験・成績評価の仕方などについて説明がはっきりしていました。	5	4	3	2	1	
3. 先生は、授業について熱意がありました。	5	4	3	2	1	
4. 先生の授業は、とてもわかりやすかった。	5	4	3	2	1	
5. 先生の授業の準備はよくできていました。	5	4	3	2	1	
6. 先生は、学生の理解・興味を深めるためにいろいろ工夫をしていました。	5	4	3	2	1	
7. 先生の授業は、時間どおりに始まり、時間どおり終わりました。	5	4	3	2	1	
8. 授業でわからないことを質問できる機会や工夫がありました。	5	4	3	2	1	
9. 先生は、授業を乱す行為（私語・携帯電話（メールを含む）・居眠り・中座等）に対して適切に対応していました。	5	4	3	2	1	
10. 私は、この先生のこの科目を、他の学生や他大学の学生にも受講するよう薦めたい。	5	4	3	2	1	
11. 私は、この授業に熱意をもって取り組みました。	5	4	3	2	1	
12. 私は、授業の学習にあたり、シラバス（講義要項・学習計画）を参考にしました。	5	4	3	2	1	
13. 私は、授業中、私語や携帯電話（メール等）・中座など、授業を乱すような行為はしませんでした。	5	4	3	2	1	
14. 私は、この授業で遅刻・欠席はほとんどありませんでした。	5	4	3	2	1	
15. 私は、この授業のために週当たりほぼ次の時間、宿題や予習などをしました。 ※当てはまる数字に○をつける。						
	5 (3 時間以上)	4 (2 時間ぐらい)	3 (1 時間ぐらい)	2 (30 分ぐらい)	1 (ほとんどしなかった)	
16. この授業を全体的に評価してください。 ※当てはまる数字に○をつける。	5 秀	4 優	3 良	2 可	1 不可	0 わからない
17. 私は、この先生の別の科目も受講したいと思います。	5	4	3	2	1	

科 目 名	クラス名 ()			
学籍番号*				男
学 年	1	2	3	4
所 属 学 科	1 英語科		2 保育科	
	3 英語コミュニケーション学科			
	4 科目等履修生			
入 試 区 分	1 一般入試	2 推薦入試	3 A0 入試	

* (学籍番号) できるだけ記入してください。

PART II 次の質問に礼節を守って自由に記述してください。

(裏面に記入)

- この授業のよい点
- この授業に改善してほしい点
- この科目や担当者の授業方法について、感想・意見・印象に残ったこと。
- 学長へ (聞いてほしいこと)

(裏のページへ進んでください⇒)

PART II 次の質問に礼節を守って自由に記述してください。

※この記述は統計的に処理され、この回答用紙を担当教師が直接に閲覧することはありません。

1. この授業のよい点												
2. この授業に改善してほしい点												
3. この科目や担当者の授業法について、感想・意見・印象に残ったこと。												
4. 学長へ (聞いてほしいこと)												